

## 令和5年度 第1回 大阪府市文化振興会議 議事概要

- ◆日時：令和5年5月10日（水）14時から15時18分まで
- ◆場所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）本館7階 709号室
- ◆出席委員：橋爪会長、片山副会長、梶木委員(オンライン出席)、志村委員、笑福亭委員、永田委員(オンライン出席)、宮崎委員

### 【概要】

#### 1 会議の成立について

（事務局）

- ・委員10名中7名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告

#### 2 大阪府市の文化事業について

（橋爪会長）

- ・本審議会として、府市の文化事業に対してしっかりと進捗状況を把握し、チェックしていきたい。
- ・府市それぞれより、昨年度の事業実績及び今年度の事業予定について説明願う。

（事務局）

（大阪府…「資料3-1」「資料3-2」「資料3-3」に基づき説明  
大阪市…「資料4-1」「資料4-2」「資料4-3」に基づき説明）

（橋爪会長）

- ・事務局の説明について、各委員からご意見、ご質問はないか。

（宮崎委員）

- ・コロナ禍において、国から臨時交付金が出て、いろいろと事業をされていると思うが、令和6年度以降はその臨時交付金が無くなるであろうと思われる。過去2～3年間で臨時交付金を使って実施していた事業は今後どうなるのか。

（事務局）

- ・国の交付金を用いて大阪府市で実施してきた事業としては「大阪文化芸術創出事業」の「活動支援事業」と「公演機会創出事業」の2つがある。
- ・補助事業である「活動支援事業」は、令和5年度は昨年度同様に交付金を活用して継続している。今後については、国やいろいろな文化芸術の活動の状況を見ながら検討していく。
- ・「公演機会創出事業」については、令和4年度でいったん事業を終了し、令和5年度からは「文化芸術活性化事業」（※大阪市での事業名称は「大阪文化芸術祭事業」）として、大阪府市で2025年大阪・関西万博に向け、文化芸術の魅力発信を一層強化することとしている。当該事業の財源には一般財源を充てており、交付金は充当していない。

(宮崎委員)

- ・新型コロナウイルス感染症については、世間ではもう終わりに近づいているような認識になっているが、現場を見ているとお客さんが戻ってこない様子もある。新型コロナの影響のみならず、昨今の物価上昇の影響もあり、文化芸術活動が製作費や人件費に関しても非常にきつい状況の中で行われている現状がある。文化芸術の関係者がどうやってそれらの影響を乗り切り、2025年の万博に向けて活気を取り戻すか、そこをどう支援するかということを考えながら事業を進めていっていただきたい。

(橋爪会長)

- ・他にご意見等はないか。

(片山副会長)

- ・ここしばらくは、コロナ禍でダメージを受けた文化芸術関係者を何とか支援し活動を再開させていくというところに力点があった。それはそれで重要だが、文化振興計画を作ったときの目的に「全ての人々が文化を享受できることを目指そう」ということがあったので、受容する府民、市民の側がどうなっているかというところをそろそろきちんと見ていく必要がある。万博のホストシティとしては、そこから取り残された人たちがいる状況になると、とても格好が悪い。途上国で大きな国際イベントをするときには、きれいな所だけ見せて、そうではない所は蓋をしてしまうということがあるが、「大阪の場合は、文化政策の取組みによって、全ての人々が排除されずに、きちんと共生できている」という点を、この先の2年間で世界に見せていく必要がある。
- ・府や市が自ら全ての府民・市民に文化芸術を行き届かせることは不可能であり、だからこそ、それを担ってくれる民間団体に助成を行っている。民間団体には、その点、つまり府民・市民にきちんと文化芸術を届けていくということを意識して活動をしていただくというような、助成の目標の示し方というものができるとよい。
- ・また、文化芸術活性化事業（大阪文化芸術祭事業）について、2億9,000万円の事業費をかけて事業を行うと聞いているが、その推進体制が今どのように構築されてきているのかについてご説明をいただきたい。

(事務局)

- ・「仮称・大阪文化芸術祭」は、府市それぞれ2億9,000万円ずつ支出して進めていく。
- ・推進体制としては、「大阪文化芸術事業実行委員会」というものを組織し、大阪府・大阪市のほかに、大阪商工会議所や観光関連の団体にもメンバーにお入りいただいている。現在、事業者選定に係るプロポーザルを実施中で、5月末、6月頭には決定する見通し。事業者と実行委員会ではいろいろ協議をしながら、また、専門家の方々の意見もお伺いしながら進めていきたいと考えている。

(片山副会長)

- ・事業者を公募しているということだが、どういう事業者に担ってもらいたいたくて、その事業者の中がどういう推進体制になることを求めているのか。いわゆる広告代理店に丸投げというようなことになっては、効果を上げることはできず、そこにきちんと専門家が入った推進体制が必要。せっかく府市は大阪アーツカウンシルを設置して、専門的な意見を反映させながら政策を積み重ねてきているのだから、この事業でもアーツカウンシルと連携しながら、きちんと中味のある議論を進めていくことができる体制を作っていただきたい。

(事務局)

- ・ありがとうございます。

(橋爪会長)

- ・他はいかがでしょうか。

(宮崎委員)

・寄附文化の醸成について。大阪府では「大阪府文化振興基金」が、大阪市では「芸術・文化団体サポート事業」がある。どちらも寄附のメリットや、ふるさと納税の制度を使うなどして、寄附をする側にとっても非常にメリットのあるシステムを構築されていると思う。ただ、「芸術・文化団体サポート事業」を文化芸術関係者が使うということについては、まだ少し難しい部分があると思っている。事業のシステムは出来上がっているが、それを活用する立場として想定されている文化芸術関係者たちに対して、どのようなアプローチをするのか、どのような支援をするのかということの一つを考えていただきたい。自分たちで活動資金を集めよという話は大阪だけではなく国レベル・世界レベルでも出ているが、文化芸術関係者はそのあたりの知識が疎いというか、なかなか難しいものがある。システムを運用するためにはどのようにすればよいのか、そこに対しての支援なども今後考えていただきたい。アーツカウンシル部会としてお手伝いできることがあれば検討するのでよろしくお願ひしたい。

(橋爪会長)

- ・「文化芸術活性化事業」（「大阪文化芸術祭事業」）についてはこの会議の場にも時期を見てフィードバックをいただきたい。3か年事業だが、2025年以降も継続するかどうかはまだ検討されていないと思う。

(片山副会長)

- ・東京がオリンピック・パラリンピックを開催するにあたり、大きなフェスティバルをしたわけだが、そのときの推進体制などをリサーチしたほうがよい。アーツカウンシル東京がどのように関わったか、等。都立の文化施設など、地元でやってきたところもいろいろな形で参画していた。それらの推進体制が全てうまくいったというわけではないが、そうした事例を参考に、大阪の体制をきちんと築いていくことが必要。

(橋爪会長)

- ・体制ができると、そのあとは、継承事業とかレガシーなどができていく。要は、一過性のイベントで終わらないようにできればということを考えてほしい。

(宮崎委員)

- ・アーツカウンシル部会は、府市によって行われる事業に対して視察・評価を担当するという立ち位置にあるが、片山副会長もおっしゃったように、事業の意思決定のプロセスにおいて、何回か話に参加させていただく、また、出演するアーティストや会場のことなども事前に教えていただくなど、相談していただくことができるような体制を取っていただければ、意思決定後の視察や評価に加え、途中のプロセスにおいてもご相談いただければありがたい。

(橋爪会長)

- ・現行の文化振興計画は、万博を意識して、共創文化においても共創のコンビネーション、Co-Creation（コ・クリエーション）が大事だということを申し上げて作っているものであり、2025年に向けた事業などに関しても、Co-Creation、要は、府民・市民と誰が共に作り上げていくのかということで、非常に多様な場があるかと思う。そこを意識しながら進めてもらうように会長としてお願いしたい。

### 3 大阪アーツカウンシルの取組みについて

※永田委員が所用により途中退席

(橋爪会長)

- ・続いて、大阪アーツカウンシルの昨年度の活動実績及び今年度の活動方針について、アーツカウンシル部会長である宮崎委員からご説明いただきたい。

(宮崎委員)

(「資料 5-1」「資料 5-2」に基づき説明)

- ・また、「資料 5-2」の補足として、「大阪の文化政策に対する提案」と題した提案書を含めている。大阪アーツカウンシルが令和4年度の活動を通して気付いた課題や改善すべきだと感じた点について記載したもので、こちらは府市それぞれの文化課の職員にご確認頂きたいのと同時に、振興会議の委員の皆さまにもアーツカウンシル部会としての意見としてご確認頂きたいと思う。

(橋爪会長)

- ・今年度の活動方針については、皆様のご意見を伺った上で、審議会として確認したい。ご質問、ご意見等があればご発言いただきたい。

(片山部会長)

- ・調査の予算は、府あるいは市に計上をしてもらっているか。

(宮崎委員)

- ・調査研究に関する予算はあるが、かなり限られている。また、委託料として執行しなければいけないなど、いろいろな制限があるので、今年度にどこまで調査できるかというのは、これから考えていくところ。

(片山副会長)

- ・予算が厳しいということについては前統括責任者の中西氏からも聞いていたので心配していた。調査はとても大事なことで、行政側もぜひ何とかお金を工面していただければ。

(橋爪会長)

- ・時間もまだ少しあるので、宮崎部会長から、「提案」の件についてもう少しご説明をいただければ。

(宮崎委員)

- ・(「提案」について説明)
- ・駆け足で説明させていただいたが、1点だけ特に言わせていただきたい。コロナの臨時交付金を使って、大阪市立芸術創造館でアーティストサポート窓口事業を実施しているが、そこがコロナ禍で活動が難しくなっている文化芸術関係者の非常に大きなセーフティネットになっている。今後、万博やIRが控えている中で、文化芸術というものは大阪にとって本当に大切なものである。その中で活動をしていくにあたり、頼れる、相談することができる場所が必要となってくる。コロナ禍だったからというわけではなく、常にそのような窓口があり、相談ができて情報を受け取ることができる。また、産業や経済の分野だと、大阪産業創造館などの人々を支える場所があるので、その文化芸術版のような形で、大阪の文化芸術関係者

を、助けるだけではなく、支えて発展させるような機関に発展させていくことができないか。そのような願いを込めて書かせて頂いている。難しいところもあるかと思うが、よろしくお願ひしたい。

(橋爪会長)

- ・大阪府市文化振興会議の会長として、ご意見を承った、という形にさせていただきたい。補助金、助成金の費目とか考え方というものについては、この審議会でもかねてから何度も議論した時期があるが、10年前、20年前と状況もかなり変わってきているので、そこも踏まえて更に改善すべきところは改善すべきだと考える。
- ・アートマネジメント人材の育成のことについても、この会議でも長年大事だと言いながら、なかなか進展させられていない。我が国においても継続した課題となっているが、課題が継続することは、良いことではないので、何か良い解決の方向性を大阪から示すことができればと思う。
- ・コロナ禍を踏まえてということだけではなくて、サポート窓口でセーフティネットをというご提案。これは、府市及び、我々大阪府市文化振興会議としても受け止めて、何かの形で継続するようなことを考えていければよいと考える。
- ・アーツカウンシルの事業報告及び今年度の取組みについて、特にご指摘はなかったかと思うので、原案で進めていただければと思うが、よろしいか。

(異議なし)

(橋爪会長)

- ・では、異議なしということで、この取り組み案に沿って進めていただければと思う。

(片山副会長)

- ・今回、宮崎委員から大阪の文化政策に関する提案を提出いただいたが、これはとても大事なこと。国レベルでは、政府と日本学術会議がバトルをしており、政府は、「多数決で選ばれた自分たち政権が国民の意志を反映していて、その意に沿う人たちで学術会議を構成しよう」としている。しかし、学術会議はもっと長いスパンでものを見ていて、政権交代が起こった先に求められるものは何か。10年後、20年後、50年後に求められるものは何かという観点で議論をしている。
- ・イギリスでアーツカウンシルができたときも、ケインズの問題意識というもの、ナチスドイツ、多数決で選ばれた政府が文化政策を推進して少数派を排除していったという歴史に対して向けられていた。そうではなく、専門家の見解によって文化のあり方をきちんと政府等が中立的に議論していくということが重要だということで、アーツカウンシルを作った。
- ・我々は、府や市の上位計画に基づいてこの計画を策定していて、それに基づいて政策を推進することになっているが、知事や市長も交代するし、この計画もアップデートされていく。長期的な視点で、どの政権が府や市と施策を進めていくということになっても、大阪のあり方を絶えず専門家の観点から検討し、それを発信し続けるということがとても大事。
- ・素晴らしい委員の方々によるアーツカウンシルという体制があるので、その中で議論をし、「このような意見を持っている」ということを発信していただければよい。そちらに対する異論とか反論も受けて、きちんと議論をする、そのような空間を作っていくということも非常に重要だと思うので、ぜひ、そのような形のことを積極的にやっていただければと思う。

(橋爪会長)

- ・大阪府市文化振興会議も同様、というか、大阪アーツカウンシルは当会議の部会なので、当会議も共に活動をしていかなければいけないというお話だと思うのですが、何かあれば。

(宮崎委員)

- ・橋爪会長がおっしゃった通り、アーツカウンシルは当会議の部会であるので、アーツカウンシルだけではなく、やはり、当会議の皆さまに関しても、引き続きいろいろ関わっていただき、企画や議論の場があれば参加していただいて、府市の職員の皆さんと一緒に、府民・市民の皆さんと一緒に情報共有をしたり、議論をする場を作っていきたいと思う。頑張りますのでよろしく願いいたします。

(橋爪会長)

- ・他、委員の方々からコメント等がなければ、これで終了としたいと思います。ありがとうございます。

— 以上 —